

学会彙報

理事会

二〇〇八年度

〈第一回〉から〈第三回〉については、『真宗研究』第五十三輯において既に報告済み。

三輯において既に報告済み。

〈第四回〉

二〇〇八年十二月二日（火）十七時三十分より

場所：龍谷大学大宮学舎西翼三階会議室

議案：一、第五十六回大会の件

二、『真宗研究』第五十三輯編集の件

三、新入会員の件

四、その他

〈第五回〉

二〇〇九年三月三日（火）十七時三十分より

場所：龍谷大学大宮学舎本館一階応接室

議案：一、第五十六回大会日程の件

二、研究発表者選考の件

三、木辺派御門主奨学賞選考の件

四、新入会員の件

五、その他

二〇〇九年度

〈第一回〉

二〇〇九年五月十二日（火）十七時三十分より

場所：龍谷大学大宮学舎本館一階応接室

議案：一、第五十六回大会の件

二、新入会員の件

三、その他

〈第二回〉

二〇〇九年六月五日（金）十二時三十分より

場所：龍谷大学大宮学舎西翼二階大会議室

議案：一、役員交代の件

二、二〇〇八年度事業報告の件

三、二〇〇八年度収支決算の件

四、二〇〇八年度収支予算の件

五、第五十六回大会運営の件

六、木辺御門主奨学賞受賞者の選考結果と授与の件

七、次回大会の件

八、新入会員の件

〈第三回〉

二〇〇九年七月二十一日（火）十七時三十分より

場所：龍谷大学大宮学舎清和館三階会議室

議案：一、第五十六回大会会計報告の件

二、『真宗研究』第五十四輯編集の件

三、木辺御門主奨学賞会計の件

四、その他

第五十六回大会

二〇〇九年六月五日(金)・六日(土)の両日、龍谷大学大宮学舎を会場として、第五十六回大会が開催された。内容は左記の通りである。

《第一日》 六月五日(金)

一、研究発表(九・〇〇～一二・〇〇)

発表二〇分 質疑五分

《第一部会》清風館B一〇一教室

- 一、真淳における念と戒の問題 高田派 栗原直子
- 二、親鸞における仏性開覚の意味 大谷派 伊奈 潔
- 三、メタファーとモデルと方便の意義 龍谷大学 杉岡孝紀

四、野々村直太郎の「浄土教革新」論

大谷大学 木越 康

五、阿闍世の廻心

本願寺派 永原智行

六、「信巻」三二問答の背景について

本願寺派 安方哲爾

七、曇鸞の「浄土論」解釈の視点

——「第十八願開頭の書」としての

『浄土論』の一考察—— 同朋大学 尾畑文正

《第二部会》清風館B一〇二教室

一、初期本願寺における「信と教団」

龍谷大学 斎藤信行

二、真宗障害者社会福祉における「社会モデル」の受容

——障害者福祉の世界的動向を視野に入れて——

大谷派 頼尊恒信

三、法然・親鸞における菩提心観

三門徒派 嶋津行史

四、法然における助業についての一考察

大谷派 杉浦道雄

五、親鸞における聖徳太子観

大谷大学 東館紹見

六、宗祖晩年の教学の特色——太子信仰を中心として——

佛光寺派 門川徹真

二、評議員会・理事会(一二・三〇～一三・三〇)

西饗二階大会議室

三、記念講演(一三・四五～一五・一五)

講題 「真宗者の人間像——教学背景を中心として——」
講師 龍谷大学名誉教授 普賢晃壽氏

本館二階講堂

四、総会(一五・三〇～一六・三〇)

本館二階講堂

勤 行：調声 大田利生理事長

挨拶 大田利生理事長

御祝 辞：真宗木辺派門主 木辺圓慈様

進行：高田文英 龍谷大学講師

①議長選出

出席会員の中から新井俊一氏が選出される。

②役員交代について

第二回評議員理事会において次の通り役員交代が承認されたことを報告。

・龍谷大学評議員龍口明生氏が退任。後任評議員に能仁正顕氏が就任。(二〇〇九年四月一日)

・真宗山元派評議員佛木道宗氏が退任。後任評議員に嶺山秀明氏が就任。(二〇〇八年八月二十日)

・九州龍谷短期大学評議員藤能成氏が退任。後任評議員に後藤明信氏が就任。(二〇〇九年四月一日)

③二〇〇八年度事業・収支決算報告

事務局より第二回評議員理事会において承認された二〇〇八年度事業報告・収支決算が報告された。なお収支決算については後記の通り。

④二〇〇九年度収支予算報告

事務局より第二回評議員理事会において承認された予算案が報告された。なお予算については後記の通り。

⑤第四十回木辺御門主奨学賞伝達

第五十五回大会における発表者の中から、理事会の推薦によって本願寺派の藤田真証氏が受賞。大田理事長より賞状と奨学金が伝達された。

⑥次年度第五十七回大会について

次年度大会の日程・会場は、第四回理事会(龍谷大学)にて決定し、『真宗研究』第五十四輯にて告知されること

学会彙報

とが報告された。

五、記念撮影(一六・三〇・一六・四五)

六、懇親会(一八・〇〇・二〇・〇〇)

記念撮影終了後、京都東急ホテル祇園の間に会場を移し、来賓各位をはじめ会員約五十名の出席を得て、懇親会が開催された。川添泰信氏の司会進行により、来賓・会員諸氏のスピーチを交えて和やかに歓談した。

《第二日》六月六日(土) 聖蹟巡拝

午前九時、龍谷大学大宮学舎に集合。参加者四十名がそろい、バスにて聖蹟巡拝へと移った。

案内コーディネーターは、龍谷大学教授赤松徹真氏、見学地の解説は、龍谷大学准教授岡村喜史氏、アシスタントを龍谷大学の大学院生らが行った。

九・〇〇 龍谷大学大宮学舎を出発。

一〇・三〇 弘誓寺に到着、見学(約四〇分)。バスにて移動。

一一・三〇 光照寺に到着、見学(約四〇分)。バスにて移動。

一二・四〇 住茂登において昼食休憩(約四〇分)。徒歩にて移動。

一三・三〇 長浜別院大通寺に到着、見学(約六〇分)。バスにて移動。

一五・〇〇 明照寺に到着、見学(約四〇分)。バスにて移動。

一七・三〇 京都駅に到着、解散。

この聖跡巡拝には、真宗大谷派長浜別院大通寺をはじめ各寺院の皆様にご高配を賜りました。ここに厚くお礼を申し上げます。またあわせてご参加いただきました皆様のおかけをもちまして、意義ある学会研修となりましたことを深くお礼申し上げます。

当日配付資料(抜粋)

☆弘誓寺(本願寺派・東近江市鉢光寺町)

石島山と号す。小川弘誓寺と呼ばれる。もとは犬上郡石島(現・豊郷町)の弘誓寺から分かれたとされるが、『存覚上人袖日記』によると、当地に弘誓寺があるとされており、弘誓寺自身の成立は定かではない。江戸時代の西本願寺の記録によると、正応三年(一二九〇)の創建で、開基は木辺系の愚咄とする。本願寺の東西分派期に、小川弘誓寺と金堂弘誓寺(大谷派・五個荘町)に分かれたとするが、それより前に小川の地名がみられることから、小川に寺基が成立したほうが早いと考えられる。慶長六年(一六〇一)木仏本尊が許可されている。

境内には、本堂を始め真宗寺院の堂舎が建ち並んでおり、江戸時代中期の真宗建築完成期の伽藍構成として注目される。

本堂は、七間×六間の入母屋造本瓦葺。外陣まわりを角

柱とする伝統的な手法を用いるが、側通りに青海波の彫刻板支輪と蛇腹支輪を併用するなど新しい面ももつ。元文二年(一七三七)井伊家から丸柱が寄進されており、この時再建に着手し、宝暦三年(一七五三)完成したものと考えられる。

表大門は、入母屋造本瓦葺四脚門。各所にはめ込まれた彫刻や組物を派手に仕上げる。寺伝では安永三年(一七七四)の創建という。

鐘楼は、万治三年(一六六〇)の建立。

その他、近世を中心とした真宗関係の寺宝が所蔵されている。

☆光照寺(佛光寺派・東浅井郡湖北町津里)

寺伝によると、もともとは天台宗で西蓮寺という寺院であったが、正嘉元年(一二五七)円空が親鸞聖人に帰依して真宗に転じ、その後元弘元年(一三三二)に伊庭(現・東近江市)から竹生島に巡化した佛光寺の了源上人から寺号が許されたという。

当時所蔵の「一流相承系図(絵系図)」は、肉筆絵系図と木版絵系図があり、前者は天正年間(一五七三―九二)から正保年間(一六四四―四八)のもので、後者は寛永年間(一六二四―四四)以降のものである。門徒の入信者台帳的なものから、過去帳化への移行が知れる。ここに書かれた門徒の分布は、湖北町・長浜市・米原市などに及ぶ広範囲なものである。

「親鸞聖人門侶交名帳」は、親鸞聖人の門弟とその系譜を系図形式で列記したもので、甲斐国万福寺旧蔵の系統に属する。古体な部分に当寺の開基以下の系譜を書き加えたものとなっている。

☆長浜別院大通寺（大谷派・長浜市元浜町）

寺伝によると、石山合戦期に長浜の町年寄衆によって設けられた湖北三郡（坂田・伊香・浅井）の総会所に始まるという。慶長元年（一五九六）旧長浜城内に移転して、無礙智山大通寺と号するようになった。その後慶長十一年の長浜城修築に際して当地に移り、以来東本願寺から僧侶が派遣されるとともに三郡十九カ寺が輪番で護持にあたったという。正保元年（一六四四）東本願寺宣如上人の息男壺瑞院宣澄が入寺して連枝寺院となった。慶安二年（一六四九）宣如上人の要請によって彦根藩主井伊直孝から寺地の寄進を受けて寺域を拡大した。以来井伊家との関係は深く、天明六年（一七八六）には井伊直幸の息男直宥が入寺して六代明達院となった。

本堂・広間は、伏見城の遺構といわれ、慶長九年徳川家康から教如上人に贈られて東本願寺にあったものを、承応元年（一六五二）に当地に移建したとされる。ともに国の重要文化財指定。

客殿は、含山軒・蘭亭からなり、含山亭の障壁画は狩野山楽・山雪父子の手によるもので、蘭亭の障壁画には円山応挙の水墨画が描かれている。ともに国の重要文化財指定

を受ける。

☆明照寺（佛光寺派・米原市樋口）

寺伝によると、空専が当寺に入って仏道弘通したことに始まるという。開基年代は定かではないが、空専は文安三年（一四四六）の没とされる。一時本山の通寺とされていた時期があることは、所蔵文書から知ることができる。現本堂は、文化七年（一八一〇）に再建されたものである。

寺蔵の「親鸞聖人門侶交名帳」は、親鸞聖人の門弟とその系譜を系図形式で列記したもので、甲斐国万福寺旧蔵の系統に属するものに当寺の開基を書き足し、さらにその後の系譜を細かく記されており、室町期における門徒の広がりを知ることが出来る貴重な資料である。この「親鸞聖人門侶交名帳」を本願寺覚如上人が「改邪鈔」であげた「名帳」とする意見もある。

寺宝として他に、慶安二年（一六四九）に本山から受けた「光明本尊」などがある。

『真宗研究』投稿について

一、内容

真宗連合学会大会での研究発表に基づく論文で、未刊行のものを本誌投稿論文として受領する。

二、投稿資格

論文の著者は、掲載を希望する号の刊行年度と同じ年度に開催された真宗連合学会大会の研究発表者でなければならぬ。

三、執筆要領

- (一) 論文の長さは、原則として本文、図表、注記等を含め一万六千字以内とする。なお、図表は一つにつき四百字相当とする。
- (二) 図・表を挿入する場合、位置の指定は著者自身が行う。図版などで作成に多大な経費がかかるものについては、作成実費を申し受けることがある。
- (三) 論文には、標題（邦文および英文）を添えて提出することとする。
- (四) 校正は誤植の訂正に限る。初校および再校は著者の責任において行う。
- (五) 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、掲載者には抜刷二〇部を進呈する。

四、期限

論文提出期限は、学会大会発表日から一週間以内（当日消印有効・厳守）とする。

五、送付先及び部数

論文は同じもの四部（コピー可）を真宗連合学会事務局宛に送付するものとする。

六、論文審査

- (一) 本学会編集委員会が査読者を定め、論文審査を行い、その結果により採用・不採用を決定する。
- (二) 不採用または条件付採用となった場合は、その旨投稿者に通知する。
- (三) 条件付採用の論文については、著者による修正の後、あらためて審査を行い、その結果をもとに掲載を編集委員会が決定する。
- (四) 投稿された論文は返還しない。
- (五) 査読者氏名は公表しない。

会計報告

二〇〇八年度会計報告

収入の部

学会費 一、四一〇、〇〇〇円
 真宗教団連合助成金 一、〇〇〇、〇〇〇円

雑収入 七五、九四四円

前年度繰越金 一、九三一、六九一円

収入合計 四、四一七、六三五円

支出の部

第五十五回大会充当金 七二一、五一五円

学会誌第五十三輯刊行費 一、五七六、二一〇円

会議費 四六、〇〇〇円

事務費 九一、六一五円

交通費 一二〇、〇〇〇円

人件費 一二〇、〇〇〇円

雑費 〇円

次年度繰越金 一、七四二、二九五円

支出合計 四、四一七、六三五円

二〇〇九年度予算

収入の部

学会費 一、二九〇、〇〇〇円

真宗教団連合助成金 一、〇〇〇、〇〇〇円

雑収入 一五〇、〇〇〇円

前年度繰越金 一、七四二、二九五円

収入合計 四、一八二、二九五円

支出の部

第五十六回大会充当金 一、〇〇〇、〇〇〇円

学会誌第五十三輯刊行費 一、七〇〇、〇〇〇円

会議費 一二〇、〇〇〇円

事務費 五〇、〇〇〇円

交通費 一二〇、〇〇〇円

人件費 一二〇、〇〇〇円

雑費 一〇、〇〇〇円

予備費 一、〇八二、二九五円

支出合計 四、一八二、二九五円

第五十六回大会収支決算

収入の部

聖跡巡拝費 一六二、〇〇〇円

懇親会費 二二八、〇〇〇円

記念写真代 一九、〇〇〇円

大会充当金 七〇六、九八〇円

賛助金（真宗大谷派・浄土真宗本願寺派より） 七〇、〇〇〇円

収入合計 一、一八五、九八〇円

支出の部

記念講演謝礼 一二〇、〇〇〇円

會計報告

聖跡巡拝費	二二四、六一七円
懇親会費	三八四、〇四七円
印刷費	七六、一二五円
通信費	五五、一九〇円
記念写真代	三五、〇〇〇円
昼食代	六四、八一円
事務費	四六、〇〇〇円
雑費	一八〇、三一五円
支出合計	一、一八五、九八〇円

野村伸夫・普賢保之（京都女子大学）

山崎龍明（武蔵野大学）

後藤明信（九州龍谷短大）

佐々木英彰・門川徹真（佛光寺派）

藤井聞智（興正派）

福永恵順（木辺派）

北野龍雄（誠照寺派）

平 弦月（出雲路派）

嶺山秀明（山元派）

二〇〇九年度会員異動（二〇〇九年十二月現在）

〈新入会員〉 敬称略

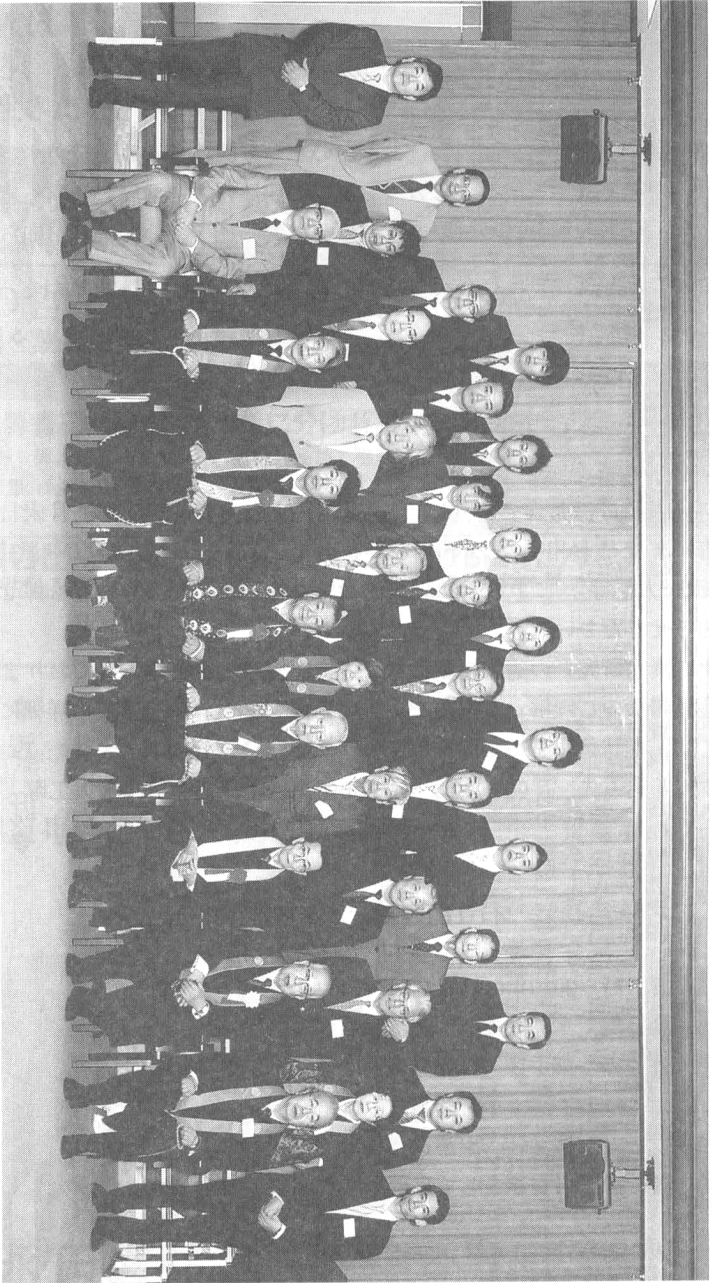
安居宏淳・岩田真美・菊池八郎・斉藤 寛・齋藤信行・平田厚
志・松山 大

〈退 会〉 敬称略

大西昇隆・久我 順・山口恵照

○退会された会員各位には、当学会のために長い間ご協力いただきましたことをお礼申し上げます。

○会員各位には、住所・電話番号の変更がありましたら、事務局までご一報下さい。



真宗連合学会 第56回大会 2009年 6月 5日～6日 於 龍谷大学大宮学舎

研究発表者募集のお知らせ

真宗連合学会第57回大会は、下記のとおり開催される予定です。大会での研究発表を希望される方は、下記の要領によりお申し込みください。

尚、発表の可否については、理事会にご一任下さい。後日お知らせいたします。

記

研究発表申し込み要領

▽発表題目に発表要旨（1,000字以内）を添えて、2010年2月末日（必着）までにお申し込み下さい。なおその際に、お名前（よみ）・所属（派・大学等）・これまでの連合学会大会における発表の有無も併せてお知らせください。

▽『真宗研究』の論文掲載にあたって、査読制度を導入しております。会員諸氏のご理解とご協力をお願いいたします。査読制度の詳細については、本誌彙報をご参照ください。

▽申し込み先 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町
龍谷大学内 真宗連合学会事務局

第57回大会開催予告

日 時：2010年6月4日（金）・5日（土）

会 場：本願寺築地別院（東京都中央区）

日 程：第1日 研究発表

記念講演

第2日 聖跡巡拝

尚、詳細につきましては改めてご案内いたします。

以上

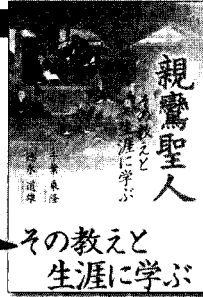
親鸞聖人750回大遠忌記念出版

親鸞聖人は
何を説き、
いかに生きたか？

親鸞聖人

その教えと
生涯に学ぶ

四六判/238頁/定価1,050円



親鸞聖人のご生涯 千葉乗隆
親鸞聖人の生きられた時代背景と、ご誕生から、ご往生までを詳説。聖人の結婚や、関東での生活についても触れている。

親鸞聖人の教え 本願他力の救い 徳永道雄
浄土真宗のみ教えを英語に翻訳する経験を生かし、現代人にわかりやすく浄土真宗の教義を説き、「他力」「悪人正機」「往生」を詳しく論じる。

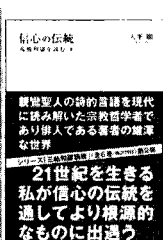
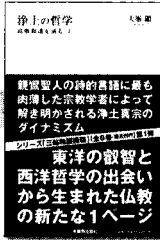
浄土の哲学
高僧和讃を読む 上

信心の伝統
高僧和讃を読む 下

大峯 顯著

親鸞聖人著書三帖和讃を全6巻に分け解説

宗教学者であり俳人である著者が『高僧和讃』を読み解いた講話集。仏教思想、西洋哲学、文学の広範な知識を通して和讃の真髓を明らかにする。 四六判/上436頁・2940円/下364頁・2520円



本願寺出版社



0120-464-583



075-341-7753

発送梱包手数料別

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺) <http://hongwanji-shuppan.com/>

(税込3,000円以上は無料) ※価格はすべて税込

◆近刊◆
朝枝善照著作集 第五巻
妙好人と石見文化

福嶋寛隆著
歴史のなかの真宗

定価2940円税込

矢田了章編
真宗伝道の課題と展望

定価5880円税込

武田龍精編
往生論註出典の研究

定価9000円税込

武田龍精編
曇鸞浄土教思想の研究
曇鸞浄土教の思想史的背景と大乘哲学的原理
武田龍精／曇鸞における浄土往生の行と機 殿
内 恒／曇鸞の五念門観に關する一試論 佐々
木義英／曇鸞浄土教における「有」の思想 日野
慶之／「往生論註」一妙聲功德成就」註釈に關する
考察 弘中満雄外 曇鸞研究論文文献目録
定価6000円税込

永田文昌堂

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
電話 075-371-6651 FAX 075-351-9031

宗祖の教学を学び、
宗祖の精神に触れる

編・刊相承字園

宗相傳叢書

全十八巻 (既刊)

十別巻一

(2010年5月
最終刊行予定)

各巻貼函入

上製クロス装

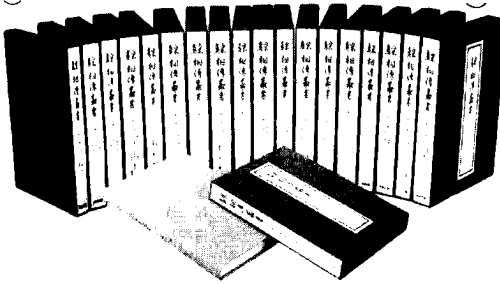
A5判

平均三八〇頁

各巻定価

12,000円(税込)

(分売不可) ©内容見本進呈します。



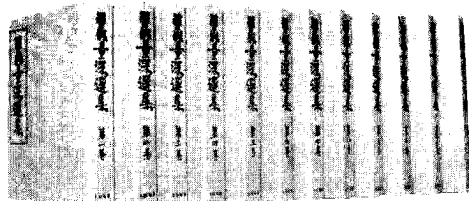
曾我量深選集

〔全十二巻〕 発行・大法輪閣

幻の名著が

オンデマンドで復刻!

■各巻	A5判上製		
■オンデマンド印刷			
第1巻	520頁	7,560円	
第2巻	468頁	7,350円	
第3巻	358頁	6,930円	
第4巻	520頁	7,560円	
第5巻	482頁	7,350円	
第6巻	408頁	7,140円	
第7巻	400頁	7,140円	
第8巻	460頁	7,350円	
第9巻	382頁	7,140円	
第10巻	406頁	7,140円	
第11巻	412頁	7,140円	
第12巻	414頁	7,140円	
全12巻セット		86,940円	
(セット特典:別冊附録対談集)			
※全て税込価格です。			



南方熊楠の森

松居竜五・岩崎仁編

新しい視覚からの論考と豊富な図版資料
で、未元の巨人・南方熊楠の実像に迫る。

「絵巻茶羅」を含む新発見の書簡、デー
タバースと映像資料収録のCD-ROM付。

A5変型並装216頁(内カラー48頁)

附録CD-ROM付(21分)定価3,000円(税込)



株式会社 方丈堂出版

フリーダイヤル 0120-557-750

FAX 075-571-4373 URL <http://www.hojodo.com>
601-1422 京都市伏見区白野不動講町 38-25

●探究社―新刊

浄土真宗の生き方

天岸浄園

●愚禿を名のつた親鸞聖人 私たちは「なぜ、浄土真宗の門徒」なのか。親鸞聖人はどのようにして、浄土真宗を開かれたか、現在のあり方を反省をこめてお話をします。 二二六〇円

でや、うまいやろ ●常見寺だり法話 利井明弘

「百次目蓮尊者とお母さん・蟬のはなし、五濁悪世・年に一度の報恩講・除夜の鐘を撞きませんか等六十篇の短文法話。門徒さんに語りかけた心暖まる法話ばかりです。 一五七五円

身近な仏さま ●テレフォン法話29 清水正宣

●こころの電話 こわれやすい人の世の幸せに、こわれることのない、真実の幸せをと、阿弥陀如来があなたに寄り添ってください。 一〇五〇円

●オールカラー

浄土真宗マナーQ&A

編集・福岡教区福岡組基幹運動推進委員会 定価三八〇円



風習や俗信、そして迷信に振り回されることのない、仏事に関するこういった場合どうしたら良いのか一等の相談を葬儀中心に整理した。作法・臨終・通夜・葬儀、その後編に。 46判/六〇頁

探究社

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町124-1 ホームページ <http://www.tankyusha.co.jp/>
電話(075)343-4121・FAX(075)343-4122 Eメール post@tankyusha.co.jp (価格税込)

安穩の思想史

親鸞・救済への希求

市川浩史著

三、九九〇円

世の「安穩」を祈り、仏法の広まる事を願った念仏者親鸞その獨白性を考察。



日中浄土教論争

小栗栖香頂

中村 薫著

九、〇三〇円

明治初期に起こった日中の僧侶による思想論争を紹介・論述した注目の書。



大無量寿経講義 全3巻 本多弘之著

好評既刊 第1巻 法蔵菩薩の誓願

九、四五〇円

第2巻 浄土と阿弥陀仏

一〇、五〇〇円

第3巻 人間成就の仏道……… 未刊

親鸞聖人七五〇回御遠忌記念出版

大系真宗史料

全25巻/特別巻1

真宗史料刊行会編

伝記編4 真宗浄瑠璃

担当 沙加戸弘 八、九二五円

伝記編8 妙好人伝

担当 菊藤明道・児玉識 九、四五〇円

重版出来 講解 教行信証

全4巻

星野元豊著

- ① 教行 ② 信 ③ 証・真仏土 ④ 化身土・総索引
- ① 九、四五〇円 ②③④ 各一、五五〇円

〒600-8153 京都市下京区正面通鳥丸東入ル 法蔵館 <http://www.hozokan.co.jp> 新刊メール配信中! 仏教の風 400年
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458 価格は税込(5%) 送料はご負担になります。